
MADAO マダオ

喜納 英人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MADAO マダオ

【Nコード】

N8061Q

【作者名】

喜納 英人

【あらすじ】

絶望の淵で二人は出会った。

希望を無くした男と、愛を無くした男。

希望を取り戻すか？

愛を取り戻すか？

今………

まるでダメなオッサンの

ダメな話が始まる。

MADAO

プロローグ（前書き）

MADAOとは

まるでダメなおっさん

という意味です。

プロローグ

それは突然やってきた。

「君、明日から来なくていいから」

上司が何を言ったか解らなかった。

「えっ？」

「だから、もう来なくていいから」

男は顔を青くして震えながら聞く。

「ど、どうしてですか？ 私が何かしましたか？」

上司は嘆息をして諭すように言う。

「君に問題はないが良い所もないんだ。君と同じように仕事を出来るのはいくらでもある。それなら成長の見込みがある若い社員の方を残すと決まったんだ。すまない」

「そんな……」

男は希望を無くして会社から出ていった。

もう一人、男の話をしよう。

男は家庭を顧みず真面目に仕事をした。

そして一人娘も自立し、後は定年まで働いて妻と二人でノンビリと老後を楽しもうと思っていた。

男は、いつも通り会社から真つ直ぐ家に帰ってきた。

リビングに妻がいた。

「ただいま。ビールはあるか？」

妻は何も言わず一枚の紙を見せた。

「何だ？」

紙を見て男は固まった。

妻が口を開いた。

「別れましょう」

男は顔を狼狽えながら聞く。

「ど、どうしてだ！？ どうして急に！」

「急にじゃないわ！ ずっと考えてた」

女は一筋の涙を流した。

男は、それを見て何も言えなくなり崩れるように座った。

しばらくして、女は家を出ていった。

それから男は酒に溺れた。

金は慰謝料と酒に消えていった。

心配で毎日来ていた娘は、弱っていく父を見ていられなくなって、

だんだん来なくなった。

男は愛を無くした。

二人の男は酒に溺れ住むところも無くした。

プロローグ（後書き）

これを見て元気になれたらいいなあと思います。

出会いが良いこととは限らない

どれくらいの時が過ぎただろうか？

俺の名前は草壁健。職業は……………

ホームレス。

ホームレスって職業なのか？ 無職でいいのか？

じゃあ、無職。

ここは中央公園。

俺以外にもここに住んでる奴がいる。

特に仲が良いのは、俺と同じ時期に住むようになった海原勇治。

俺よりも十歳くらい歳上だと思いが彼とは馬が合い、よく一緒に行動するようになった。

「健。宝探しに行くから」

「そうか。俺は駅前に行くから」

「待て、駅前は俺だ」

「なんだとジジイ」

「ああああ。そんなこと言う。カチンときた。今カチンときたよ」
五十過ぎのオッサンとは思えない右ストレートが健の顔面に入っ
た。

健はよろめいた。

「やったなジジイイー!!」

四十過ぎのオッサンとは思えない鋭い右ストレート。

「甘いわっ!」

「何だと!?!」

勇治のクロスカウンターが入った。

「バカなっ」

健は倒れた。

「駅前には俺が行く」

勇治は宝探しに行く。

全ては生きるために。
勇治の背中を見ながら健は意識を失った。
年の離れた二人が何故、馬が合ったか、それはふたりがボクサー
だったからだ。

健が目を覚ましたのは昼過ぎだった。

今何時だ？

時計を見るために公園の広場に行く。

13:00

嘘っ！？

もう、こんな時間？ 朝飯もまだなの！？

……………まあ、いいかあ。

それより、三百円しかないな。どうしよう？

健は周りを見た。

何もなかった。

本当にどうしよう？

とりあえず公園を出ることにした。

あてもなくブラブラと歩く、自販機を見つけては小銭が無いか調
べたり。

ゴミ箱を見つけては食料が無いか見てみる。

周りの視線？

そんなもの慣れた……………嘘だっ！

慣れる訳が無い。でも生きるためには仕方がない。

結局収穫はなかった。

マイホームに戻る途中、子供がイジメにあっていた。

イジメグループは三人だ。

俺は、何も見なかった。

よし、帰るかあ。

「助けて」

力なく少年が言う。

関わるな。関わるな。関わるな。

イジメグループの一人が言う。

「見るよ。ホームレスだぜ。隆、お前みたいに負け犬だぜ」

イジメグループの笑い声上がる。

カチン。

カチンときたよ。

オッサン今、カチンときたよ。

「ガキ共」

「話し掛けんな。負け犬」

「はっはっは。殺す」

健の右アッパーが顎に入りリーダーと思われる少年が吹っ飛ぶ。

小柄の少年を左フックで殴り飛ばす。

太った男を足を使って軽いジャブでメッタ打ちにして相手が防御

を棄てて右ストレートを出した所でクロスカウンターを顎に入れた。

イジメグループは全員気絶した。

イジメられてた少年は目の前で起きたことが信じられなかった。

ホームレスは振り返り手を差し出す。

少年は、その手を取ろうとした。

ホームレスは言う。

「助っ人代」

「えっ？ あっ！ はい!？」

少年のカツアゲはイジメグループからホームレスに代わった。

「すくねえが…まあ、いいかあ」

ホームレスは、また振り返りイジメグループのポケットから財布を取り金を抜いた。

「少年、お前は何も見なかった。いいな」

「は、はいいいっ」

これが佐藤隆の災難の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8061q/>

MADAO マダオ

2011年10月7日18時26分発行